

令和5年の水稲栽培に向けて

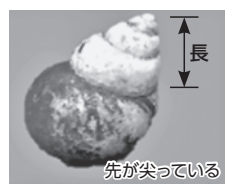
○スクミリンゴガイ対策

熊谷市では北部・東部地域を中心にスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による水稲への食害が発生しています。一度侵入すると根絶は難しくなるので、未発生地域においては、侵入させないこと、発生地域においては被害を最小限にし、これ以上の生息域拡大を防止するためにも対策を徹底しましょう。

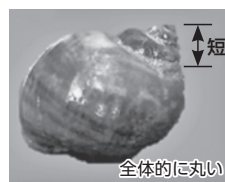
1 スクミリンゴガイの生態

スクミリンゴガイは繁殖力が非常に強く、ピンク色の卵を年間3,000個以上産卵します。雑食性で柔らかい植物を好むため3〜4葉期までの稲は食害されやすいため、5葉期以降になるとほとんど食

害されません。冬季は土中に潜って越冬し、入水後に活動を開始します。



在来タニシ



スクミリンゴガイ

2 対策のポイント

(1) 侵入防止対策

トラクタの車輪や作業機に付着した泥に混じって別のほ場に侵入してしまう場合があります。発生地域と行き来する場合は付着した泥を落とし、未発生地域に持ち込まないように注意します。農作業受託等により委託を受ける場合にはスクミリンゴガイの発生地域であるかどうかの注意も必要です。

そのほか、水路で越冬した個体の侵入を防ぐため、取水口に9mm目合い程度の網を設置しましょう。田植え前の入水時から移植後3週間までの設置が効果的です。

(2) 被害防止対策

① 水路での殺卵・捕殺
濃いピンク色の卵塊は、水中で呼

吸できないため産み付けられた卵塊を水没させると駆除できます。黒い白っぽい卵塊はふ化直前で、水没させてもふ化が可能なため、押しつぶします。

さらに、ナス、レタス、スイカなどの野菜トラップを設置して、集まった貝を捕殺し、水田内に侵入する個体数を減少させます。

② 耕うん

耕うんの際に貝を粉碎することで、個体数を減少させることができます。特に越冬個体の多い水口や水尻、水路脇などの外縁部では、耕うん時の車速を低速にし、PTO回転を速くして丁寧耕うんします。

③ 薬剤散布

田植え直後を中心に湛水状態で防除を実施します。「スクミノン」や「スクミンベイト3」は、スクミリンゴガイに薬剤自体を摂食させる薬剤です。散布後、効果を確実にするため少なくとも3〜4日間はたん水状態を保ちます。

④ 浅水管理

スクミリンゴガイは水中でないと摂食できず、水深が浅いと活動が制限されます。可能な範囲で田植え後約3週間までは水深4cm（理想は1cm）以下の浅水で管理し、食害を抑

えます。

○麦わらの有効活用の推進

麦わらは良質な有機物資材です。すき込むことで、物理性の改善や地力の向上につながります。麦わらは燃やさず、有効利用しましょう。

1 麦わらすき込みのポイント

ほ場での浮き上がり防止のために麦わらは長め（15cm以上）にカットし、均一に散布します。

耕うんはできるだけ深く行い、麦わらと土が良く混ざるように行います。また、代かきは田面が見えるほどの極浅水で行い、入水後の浮き上がりを防ぎます。

麦わらをすき込んで3年くらいは麦わら分解時に窒素を必要とするので、窒素肥料を2〜3割多めに施肥します。

また、麦わらが分解されて発生するガスは水稲の初期生育に悪影響を与える場合があります。ガスの発生がみられた場合は、田植えから3週間後を目安にガス抜きを実施しましょう。

（大里農林振興センター農業支援部）



農作業メモ

お問い合わせ先

大里農林振興センター
農業支援部
熊谷市久保島1373-1
TEL. 048-526-2210
FAX. 048-526-2494

